

新

年を迎えるにあたり、町民の皆さまに謹んでごあいさつを申し上げます。

昨年は、大阪・関西万博が世界的な注目を集め、大きな成功を取めた年でした。多くの課題や困難を乗り越えたその姿は、私たちも含め、日本国民に大きな勇気と希望を与えてくれました。

また、阪神淡路大震災から30年の節目の年でもありました。兵庫県で開催された「創造的復興サミット」に被災自治体の首長として私も参加し、熊本地震の経験と教訓を報告いたしました。サミットで採択された「ひょうご宣言」に込められた「経験と教訓を、未来をつくる力に変える」との誓いを、私も胸に深く刻んだ次第です。

そして本年4月、私たちの町も熊本地震から10年という大きな節目を迎えます。二度の震度7という未曾有の災害

に直面し、首長として幾多の困難や厳しい判断に迫られ、心が折れそうになったことも一度や二度ではありません。

しかし、今日こうして復興の確かな歩みを実感できるのは、ひとえに町民の皆さまの復興に向かう強い思い、そして全国からの温かいご支援、職員の懸命な努力のたまものである。改めて心より感謝申し上げます。

昨年は、公共施設復旧の集大成となる「地域共生センタールカタル」が開所し、復旧事業は大きな区切りを迎えました。新たな交通拠点「木山交通広場」や都市計画道路「益城東西線」の一部開通も実現し、町の新たな骨格が着々と形づくられています。

さらに、「益城中央被災市街地復興土地区画整理事業」では宅地引き渡しが半数を超え、復興のシンボル「県道熊本高森線4車線化事業」も、

いよいよ本年3月の全線供用開始を目前にしております。

今年の干支は午。「人間万事塞翁が馬」という故事が示す通り、人生はなかなか予測がつかないものではありませんが、私は、ただ運を天に任せるのではなく、駆ける馬のように未来へ挑戦することで幸福は手繰り寄せられるものと確信しております。

これからも町民の皆さまと心をついにし、この町のために全身全霊で駆け抜けてまいります。

謹

んで新年のごあいさつを申し上げます。町民の皆さまにおかれましては、

清々しい新春をお迎えのことと心より喜び申し上げます。

世界では依然として紛争が絶えず、複雑な社会情勢にあります。国内においても、長引く物価高騰や少子高齢化、地域経済の活力低下など、多くの課題に直面しております。このような時代だからこそ、私たち一人一人が未来への希望を胸に、力を合わせる事が不可欠です。

さて、本町では熊本地震からの創造的復興が着実に進展しております。「県道熊本高森線」は、広崎から惣領までの区間が供用開始され、残る区間も令和8年3月末の全線供用開始を目指して工事が進捗しております。全線開通の暁には、交通の利便性が飛躍的に向上し、町内外との交

流が一層活発になるものと期待しております。

また、町として初めて取り組む産業団地の整備は、まもなく造成工事に着手いたします。これは新たな雇用の創出と町全体の経済活性化の礎となることでしょう。「益城台地土地区画整理事業」では西地区が完成し、多くの転入者をお迎えして新たなコミュニティが形成されつつあります。今後は中・東地区の整備も本格化し、町の新たな拠点として、さらなる人口増加にぎわいあるまちづくりが進むものと確信しております。

町議会といたしましても、これらの重要な事業に対し、町民の皆さまの声に真摯に耳を傾け、議員一人一人が住民の代表として議論を尽くしてまいります。町政の監視役としての役割を果たすとともに、町の未来を開く政策提言にも

積極的に努めてまいります。

町民の皆さまが安全安心で心豊かな生活を送れるように、そして益城町が誰もが住みやすく、訪れたくなる魅力あふれるまちへとさらなる発展を遂げるため、議会一丸となって全力で取り組む所存です。本年も町議会の活動にご関心をお寄せいただき、ご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が町民の皆さまにとりまして、明るく健やかで希望に満ちた一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。

町の未来を開くため  
町議会一丸となりまい進する

益城町議会議長 榮正敏

熊本地震から10年  
さらなる町の発展に向けて

益城町長 西村博則

